



今回、私は『共に育つ』というテーマを頂きました。この言葉から私がまず感じ、考えたこと。それは、「共に」という言葉の持つ意味です。そこには、個人の成長だけに目を向けるのではなく、人と人との関わりの中で互いに育ち合うことに目を向けるという意味が込められていると感じます。

では、園生活の中で共に育つのは誰か…と考えた時、子ども同士の関わり、子どもと大人との関わり、大人同士の関わりなど、いろいろな関係性の中での育ち合いが考えられると思います。子どもが友だちや大人の姿に憧れ、「自分もやってみたい」と意欲的な姿を見せることもあるでしょう。自分の思い通りにいかない、そんな気持ちのぶつかりあいを通して育つ面もあるでしょう。

そうした中で、私自身が実際に経験し、自己の成長や学びに繋がったと思える出来事がありました。

私は、給食の時間を4歳児クラスで一緒に過ごす事が多いですが、その中で最近感じた事があります。4月当初は食事量が少なかったり、苦手な食べ物がある子どもも多く、配膳時に自分で「〇〇を減らしてください」と伝え、自分の決めた量を食べきるようにしていた子どもたち。最初は「減らしてほしい」という事を上手く伝えられず、食べる時に困っている姿もありました。しかし、1年が経とうとしている今(3月)では、自分から気持ちを伝えられるようになったり、食事量も増え、苦手な物も頑張って食べたり…といった姿が多く見られるようになってきたと感じます。それは、クラスでの遊びや日々の生活を通して、子どもたちの体や心が育ってきているからでしょう。ある日のこと、給食の配膳時に、「〇〇を減らしてください」と伝えてきた子どもがいました。私が減らしてあげようかと思ったその時、クラス担任が「大丈夫。食べられるよ。」と一言。ある子に対しては「それは他のより少し少な目だから食べられるよ。大丈夫！」と声をかけていました。4月当初の子どもたちなら、そこで「いや、減らしてほしいんだ」という気持ちになり、食べきれなくて涙が出たかもしれません。しかし今では、その担任の一言で「食べられるかもしれない」「頑張ってみよう」といった気持ちが見てとれました。実際、減らさなくても食べきる子どもの姿があり、「すごい、食べられたね！」と声をかけられるとまんざらでもなさそうな嬉しそうな表情をしていました。そんな子どもの姿を見て、こうした経験がこの子にとって自信となり、自ら頑張ろうとする力へ繋がっていくのだろうと感じました。日々子どもたちの育ちを一番近くで見ているクラス担任だからこそ、今の時期のタイミングでこうした関わりをしたのだと感じ、子どもの育ちを見ながら関わりを考えていく大切さに改めて気付かされました。こうした子どもの育ちとクラス担任の姿を通して、私自身の学びとなり、私も共に成長させてもらっているのだと感じています。

大人同士の関わりでも、共に育つということを感じる出来事が日々あります。例えば、私は職員室にいたことが多いですが、他職員からパソコン操作などについて質問を受ける機会があります。そのような時、こちらが一方的にしてあげるのではなく操作方法を伝えることで、次回から自分で行えるようになったり、また別の職員へやり方を伝えている職員もいました。私自身、質問を受ける中でそれが初めて知る機会となることもあり、また他の人に伝えることで自分の中で理解が更に深まる場合もあります。先日参加した研修の中で、「個人の成長を通して、組織の成長へと繋げる」という話を聞きました。これもまた「共に育つ」ということに通じると感じています。私自身もここで様々な事を学びながら日々仕事をしていますが、子どもも大人も共に育ち合える、そんな関係性を大事にしながら毎日を大切に積み重ねていきたいと思っています。



(2019年3月)